



裏山

校長 安達 修久

梅雨の晴れ間には、真夏のような雲が空に浮かんでいます。気温も上がり、日中と朝晩との寒暖差が大きい日が続いていました。同じく、晴れた日と雨の日の気温差も大きく、健康を保つにはいささか困難を伴うこのごろでした。

すでにご存じの方も多いかと思いますが、本校敷地内には「裏山」があり、季節ごとの自然観察などを行うことのできる貴重な学習の場となっています。ロング昼休みには、自由に遊べる場所として開放していましたが、コロナ禍には感染予防のため、学習時のみ入れることとしていました。毎年入学してくる1年生には、ほぼまちがいなく上級生からこの裏山についての紹介があります。それだけに、入るのに制限がかかっていたのは残念なことでした。

そして今年度、ロング昼休みでの開放を再開することにしました。6月21日の開放再開に先立って、枯れ木が目立っていたため樹木剪定を行ったり、職員による安全点検を行ったりしました。前日には花ボランティアの方々が、除草と通路の整備を行ってくださいました。21日のロング昼休みには大勢の児童が裏山に入り、主に散策を行って気持ちよく過ごしていました。



さて今年度150周年ということで、過去の記念誌などをひも解いていたところ、この裏山についての記述を見つけました。創立100周年記念誌「あしあと」によると、昭和20年代前半に校舎を建てる土地を確保するため、地域の方々が協力して裏山を切り崩した、ということです。平日、日曜にも作業を行い、協力者の数は延べ7000人にもなるだろうとのことでした。当時の写真が掲載されていますが、かまぼこのようなその断面は今も面影があるような、ずいぶん様変わりしたような…。現在、子どもたちが学び遊ぶ場となるなど、このころは想像もできなかったのではないのでしょうか。



長い年月を経て現在の裏山は、雨が降ると地盤が緩む危険が出ている区域に指定されています。平日に警戒レベル3が発令された場合、授業は中断して体育館に避難しなければなりません。かたちあるものいつかは減すと言いますが、たしかに大雨の後などに、地層がおき出しになっている崖の面が少し削れてしまっていることがあります。(この地層、理科の学習にはとても貴重です。)また夏になるとスズメバチが姿を現すことがあり、安全面に配慮が必要となる場合もあります。

春にはフジの花が咲き、秋にはドングリがたくさん実り、野鳥がさえずりリスがやってきて、ちょっと歩くのにちょうどよい起伏と広さの、釜利谷小学校の裏山。地域の方々が大変なご苦勞をして切り開き、そして今子どもたちの憩いの場ともなっているこの場所が、150周年を越えてこれからも長く親しまれていくことを願ってやみません。そして、裏山が切り開かれた際のような地域・保護者の皆様との連携と協力を、今後も大切にしよう努めていきたいと思えます。